

サーモンフィッシング 手取川（白山市）の取組み

視察見聞

昨年からの「サケ資源有効利用試し釣り」を実施しており、本事業に向けて、先進地である手取川サケ有効利用調査実行委員会（石川県白山市※旧美川町）で研修視察を実施した。

ここでは、毎年秋に美川地区の手取川河口にて、手取川サケ有効利用調査を行っている。この事業は、手取川のサケ資源の有効利用を図るとともに、サケの増殖事業を妨げない範囲で、遡上するサケの体長測定などの資料収集を目的とし、一般遊漁者（抽選による当選者のみ）にサケを捕獲させている。釣ったサケは、オス三尾まで持ち帰れる。メスは指定した生簀に入れている。期間中は、県内外から大勢の釣り人（二十一年度延べ千五百人）が訪れている。

この研修では、次のような項目を質問して、丁寧な説明を受けた。

- ◆**実行委員会設立までの経緯**
平成十二年に手取川サケ有効利用調査実行委員会を設立。
- ◆**施設利用料（釣り券）の価格**
一日券（一人当たり）五千円、連続二日間（二人当たり）八千円。
- ◆**採捕者と組合員の対応**
手取川は、漁業権が設定されていないのでトラブルはない。
- ◆**釣り客へのマナー指導及び監視体制**
調査マニュアル及び規則を送付し、ルールやマナーを徹底する。
- ◆**監視員三名、受付・検体等二名の五名体制で行っている。**（県水産課の協力を得て）
- ◆**漁具（竿釣）使用**
ルアー、フライ、餌釣り、（専用区域あり）。

※その後、移動して漁場を見学させてもらった。又、近くにある石川県水産総合センターの孵化場も見学し、帰路につく。

早朝六時三十分出発、帰り午後七時と強行スケジュールであった。皆さん大変ご苦勞様でした。



漁業権の設定がない手取川 トラブルなし

〔二十二年十一月二十五日実施〕 報告／藤田理事

河川懇談会

国土交通省への要望

- ◆ 魚類等の生息環境を保護した河川改修。
- ◆ 壇提や頭首工に魚道の設置。
- ◆ 阿賀野川河口の土砂の除去等による環境改善。
- ◆ 阿賀野川と早出川の合流地点の堆積土砂の撤去。
- ◆ 小阿賀野川樋門及び満願寺閘門に魚道の早期設置。などを要望した。

新潟県への要望

- ◆ 河川工事の際は、自然回復や魚族保護のため大石を残すなどの措置を。
 - ◆ 早出川ダムの放水（生態系が保持できる流量の確保）
 - ◆ 農業用排水等の汚濁水流入防止。
 - ◆ 農業用頭首工に魚道の整備改善。などを要望した。
- ※新谷川大谷頭首工の魚道が整備された。



遊漁券「東蒲・阿賀」で販売

今まで、遊漁証の販売は、東蒲漁協、阿賀漁連、阿賀漁協でそれぞれ販売していましたが、県の指導もあり、阿賀野川水系の遊漁証販売に関する協議を行いました。

協定（案）では、遊漁証は、東蒲漁協と阿賀漁協で販売する。阿賀漁連は事務所のみの販売とする。遊漁証の権利を持つ下流三単協（松浜漁協、濁川漁協、大形漁協）には売上のなかから協力金を支払うなどの内容で詰めています。

(有)MM製作所

自動車内外装用品製造
住所／阿賀町細越236番地
TEL0254(99)2841 FAX(99)2862

NEW RELEASE



製造・販売元 HOKUETSU

北越産業株式会社
〒959-2221 新潟県阿賀町細越4161-1 TEL 0250-68-2423 FAX 0250-68-2512
ホームページ公開中 ▶ <http://www.15.ocn.ne.jp/hokuetsu/>

(有)権文製作所

確かな技術で 躍進する！
阿賀野市小松576
TEL 0250-68-4535

- * 撤去作業に問題あり
- * 影響後年にわたる…
- * 滞積泥産卵床にダメージか



咲花頭首工改修工事

【工事の概要】

◆ 二十二年年度発注の右岸工事は、二十三年四月末で河川内工事は完了した。左岸側の減勢工は五月末で終了する。

◆ 今後の工事予定は、減勢工の恒久対策を平成二十四年十月～平成二十五年三月に行う事になっている。

【補償交渉について】

過去五ヶ年の漁獲量や魚価等を調査して積算した補償内容で二十三年三月に事前交渉を行った。

左岸魚道閉鎖に伴う遡上期の影響、濁水沈殿による産卵床への影響、魚場環境の悪化・魚場の流失、左岸工事終了に伴う回収作業（トンパツクの流失、土砂流失による河川環境の悪化）等を補償対象として交渉に臨む。



濁水、これではたまらない！

期待をこめて 蘇れ 安野川！

サケ稚魚放流

霊峰五頭山を

源流とする安野川

阿賀野市村杉から京ヶ瀬地区金湖までの一級河川である。現在は下流域から、年次計画で治水目的として、大改修中の川である。改修後の川幅は三十米を超える大河に変貌し、いろいろの可能性を秘めた川である。

昭和三十年代後半頃は上流域の七浦地区で、鮭の遡上が確認された、水害後、河川環境が大きく変化したのか遡上は確認されていない。

中流域の水原地区百津町内では町内会、子供会合同で鮭の稚魚放流を行っている、毎年二万尾、今年で五年目である、噂では、鮭が遡上しているとの情報もあるが確認されていない。早期の遡上から子供たちの笑顔を見たいと願う。

この川は、阿賀野川漁協の漁業権河川である。昔の上流域までの情報をもとに、現地を踏査して見た、あの水量、清流、村杉地区に本格放流をしたら、大野地地区までは落差工は無い、遡上を阻害する物は何も無いのである、一括採捕？（改修時に施設整備を県に要望する）観光資源？、そんな事を思いつつ帰路についた。

何で見落とされていたのか、魅力満載なのに。



城ヶ窪橋
（3月にサケ稚魚51,000尾放流）